

大会長挨拶

第26回 国際保健医療学会東日本地方会を2011年6月18日に、津田塾大学で開催いたします。大会長の三砂ちづるです。

日本初の女子留学生のひとり、津田梅子が1900年に開学した女子英学塾をその始まりとする津田塾大学は、多くの皆様がすでにご存知のように、保健医療系の大学ではありません。学芸学部のみのリベラルアーツカレッジであり、学生たちは英文、国際関係、数学、情報科学などの学科を足がかりとし、「学ぶ、ということはどういうことを学び、教養を深める」ことが求められる大学です。保健医療系の大学ではないとはいえ、学生の国際協力現場への感心は高く、卒業生も活躍しており、国際保健に関わってこられたみなさんはきっと、津田塾大学の卒業生に、世界のどこかでお会いになっているのではないのでしょうか。

今回の地方会は、保健医療関係者にも満足いただけるレベルを提示しながら、同時に、津田塾大学での開催にふさわしく、ノン・メディカルで国際保健に関わったり、興味を持っておられたりする皆様にも積極的にご参加いただけるような会を目指しました。

みなさまがこの国際保健医療、という分野にどんな思いを持って入ってこられたか、おひとりおひとりの思いが今も感じられるような気がします。日々の多忙さ、目の回るような現場の仕事に追われ、初志を忘れそうになったり、現状の困難さに無力感を感じたりすることもあるかと思います。この世界をよりよきものにする、という自らの国際保健への熱い思いを確認し、先に進む一歩に出来るような一日にしたいと思い、「変革の契機としての国際保健」というテーマを掲げました。

「今、なぜ、パウロ・フレイレか」、「ノン・メディカルによる国際保健」、「精神保健と国際協力」、「Safe Motherhood と日本の助産」、などをタイトルとしたシンポジウムを企画しています。当該分野の経験豊かなシンポジストと豊かな議論を紡いでいきたいと思いません。ポスター発表、ランチタイムセッション、会長講演、学生部会主催の疫学に関するワークショップ(6月19日)、ライブ音楽つきの懇親会、などの企画を用意しました。地方会ならではの顔の見える範囲での関わりを大切に、ゆっくり学びを深めてください。

この大会は、2011年3月19日に開催される予定でした。東日本大震災により、延期されましたが多くの方々のご尽力により、今回、2011年6月18日に開催できることを感謝します。震災とそれに伴う災害の犠牲となった方々に深く心を寄せると同時に、私たちの築いてきた「近代」についてあらためて考え、志を同じくする友人と再会し、新しい仲間を得る、そんな一日にしていだければ、と、地方会スタッフ一同、願っています。

2011年5月

大会長 三砂ちづる (津田塾大学 国際関係学科)